



神奈川県私立幼稚園連合会 設立70周年記念大会開催

神奈川県民ホール
平成30年8月7日(火)



INDEX

2-3

第31回
関東地区代表者協議会
神奈川大会を終えて
～関東・神奈川はひとつ～

4-5

研修事業部・研究部活動報告

- 中堅教諭対象講習会 横浜美術館子どものアトリエ研修会
- 男性保育者勉強会
- 若手後継者のための保育勉強会

研修会報告

6-7

第33回 設置者・園長全国研修会
『明日に向けて幼児教育の振興を考える』
新卒者・既卒者向け就職セミナー報告
「来年の展望を考える上で」
平成29年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会研修大会報告
「目標達成・夢に対する行動の明確化と思考法」
教育相談室 東海道線が止まった！

8

Pride of KANAGAWA
神奈川子ども・子育て会議について
全日本私立幼稚園連合会“幼稚園ナビ”紹介

今年 は本連合会が実施団体であり、小澤会長以下スタッフが一丸となり会を運営し、各地区よりお越しの皆様を心より歓迎しました。関東地区会8県（神奈川・群馬・栃木・茨城・埼玉・新潟・千葉・山梨）の幼稚園団体役員及び行政担当官総勢約130名の皆様がご参加され、大変に盛大な会となりました。

当日は多岐にわたる講義・協議がなされ、各々研鑽を深めたのは言うまでもありませんが、意見交換会をええて研修会場より離れた横浜中華街にて開催しました。県内外を問わず、参加者同士の親睦を深めたのと同時に、全ての参加者の皆様に、開催地横浜の街を深く知って頂く良い機会となりました。



新要領と 保育の質の向上

【講師】
国立教育政策研究所
幼児教育研究センター
総括研究官 堀越紀香 先生

平成30年度より、「幼稚園教育要領」が実施されることとなりましたが、その内容やねらいを知り、幼稚園教育の永遠の課題である「保育の質の向上」に繋げるべく堀越紀香先生の講演を拝聴させて頂きました。

冒頭、「学びと育ちを捉えてつなぐ」と題し、「5歳児10月 雨水あつめ」の事例

突然の雨ー園児が思い思いに雨水を集め出す。集める道具も、バケツやおけ、じょうろ、コップ、ビニール袋等々。中には、傘をさし傘から流れ落ちる水を集める等の工夫が見られた。その後、雨水と水道水との違いを調べはじめた。

雨水 ↓ 濁っている ↓ さわるとぬるい
水道水 ↓ 透明 ↓ 冷たい

こうして、園児自らが、学びの課題を持ち、工夫しながら、雨水と水道水の違いを発見していくという、学びのプロセスの例。

＜中央教育審議会＞

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」（答申）
平成28年12月21日

- 幼児教育で育みたい資質・能力
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 非認知能力、社会に開かれた教育課程
- 要領・指針の整合性、幼小接続の重視

- 施設全体の質の向上
- ＜幼児教育・非認知能力への関心の高まり＞
 - ・アメリカ ベリー就学前計画の概要
平日2.5時間の子どもの教育と週末1.5時間の家庭訪問で家庭への教育
 - ・アメリカ ベリー就学前計画の結果
 - 就学前教育への参加は、将来の所得向上や生活保護受給率の低下につながる。
 - 就学前教育は、認知能力（IQ）というよりも、非認知能力（動機付け、粘り強さ、自制心等）を高めることで長期的効果を持った可能性を示唆。
- ＜教育が子どもに与える影響＞
 - ・家庭・親の歴史は容易に変えられないが、公教育が介入できる可能性はある。
 - （イギリス EPPPE 研究： Sylva et al., 2011）
11歳の数学、英語、自己調整力の発達には、3〜4歳時の家庭における学習と遊びの環境（絵本読み、文字や数字の学習等）といった幼児教育の経験・質が組み合わさって関係している。
 - ※家庭環境が悪くても、質の高い幼児教育が、子どもに肯定的な効果をもたらす。
- ＜社会情動的スキル（非認知能力）とは＞OECD
 - ・目標の達成
 - ↓ 忍耐力 自己抑制 目標への情熱
 - ・他者との協力
 - ↓ 社交性 敬意 思いやり
 - ・情動の制御・管理
 - ↓ 自尊心 樂觀性 自信
- ＜幼稚園教育において育みたい資質・能力＞
 - 1. 知識及び技能の基礎
 - 2. 思考力、判断力、表現力等の基礎
 - 3. 学びに向かう力、人間性等
- ＜幼児期の終わりまでに育って欲しい姿＞
 - 1. 健康な心と体

昨年より約1年間をかけて準備を進めてきた「関東地区代表者協議会神奈川大会」を無事に終了することが出来ました。関東地区7県の代表者・行政官約70名を神奈川・横浜の地にお迎えし、県連役員・実行委員約60名も一同に会して、2日間に亘る研修や行政報告、そして意見交換会を実施致しました。幸い2日間とも好天に恵まれ、横浜の港を見下ろす「ホテルニューグランド・ペリー来航の間」のロケーションも素晴らしい、快適に研修にご参加頂けたことだと思います。神奈川らしいおもてなしと研修内容に、他県からの全ての参加者がお礼を述べられながら、横浜の地を離れていかれました。全てのスケジュールが終了したときは、何とも言えぬ充実感と達成感を味わうことが出来ました。

全日本私立幼稚園連合会において、関東地区・神奈川地区の存在は大きく、加盟園の約30%を占め、多くの役員を送り出しています。様々な会議において発言力を有し、全日私幼連の方向性を決める存在となっています。今回の代表者協議会においても、関東・神奈川は一つという結束を確認する事が出来たと思います。

実行委員会の統括にあたられた鈴木豊司総務部次長、仁藤一成振興部次長の両名は細かな配慮を随所にめぐらせ、その責任をしっかりと果たしてくれました。県連事務局スタッフも裏方として頑張ってくれました。運営にあたられた実行委員会の皆様、本当に有り難うございました。



公益社団法人
神奈川県私立幼稚園連合会
会長 小澤俊通



保護者からのクレーム リスク・マネジメント

【講師】
学校リスクマネジメント推進機構
代表 宮下賢路 先生

研修IIでは、テレビ、ラジオ、新聞等を通じて危機管理の重要性を訴えながら、学校現場でハードクレームや様々な不祥事に関する危機管理対策を直接支援しておられる宮下賢路代表に講演いただきました。以下は講義内容の要約となります。

保護者から多様なクレームがある。致命的なクレームが起きた時、または未然に防ぐようにする際、どのように対応すべきか、そのメカニズムと対応技術を知る必要がある。

まずクレームのメカニズムを見てみる。致命的なこじれるクレームが1件起きる。しかしその前には29件の一般的なクレームがある。更にそれ以前に300件のミスや言動による「ヒヤリ・ハット」が存在しているのである。本来ならその時点で対処していれば致命的なところまでは至らない。しかし万が一、大きなクレームへと発展した場合、クレームを現状より悪化させ拡大させないことを第一目標として取り組まなければならない。その為には適切な対応が求められる。

この適切な対応は、初期の対応が非常に重要になってくる。クレームの時点で保護者は怒りの感情がある。通常の判断力、思考力、理解力ではない。まずこの怒りを沈めるところから対応が始まる。その対応は3つ。

一つ目は、迷惑をかけた状況への限定的な謝罪。二つ目は、共感しながら話を聞く。最後は言い訳や正当性を主張しない。これらに注意し、気持ちが悪くならないようにすることが重要。

- 1. 補助金の現状について
国の基準に沿いながらも各県、市町村の財政の状況により、差がありました。
- 2. 認定子ども園（施設型給付幼稚園を含む）類別の移行状況（29年度・30年度の見込み）
各県で差があり、全体としては3割〜8割という状況でした。
- 3. 私学助成園への処遇改善（新制度移行園との格差是正）補助の有無
積極的に進んでいる県もあれば、検討中の県もありました。



私立幼稚園への 支援状況

【担当】
各県私学・保育行政担当者



日本の深海と 有人潜水船

【講師】
国立研究開発法人海洋研究開発機構
広報部長 田代省三 先生

JAMSTEC（国立研究開発法人 海洋研究開発機構）は、神奈川県横浜須賀市に本部・本拠地を構える研究を主とした世界に誇る施設といえます。研究内容は地球環境変動研究、地震・津波などの研究、海洋ゴミに関する研究など多岐にわたります。

研修会報告		研究部主催	研修事業部主催
9月6日(水)			
相和オープン講座 綾瀬市中央公民館講堂 79名			
「子どもの育ちを保障する環境づくり」			
こども環境アドバイザー／一級建築士／関東学院大学非常勤講師／大妻女子大学非常勤講師／流通経済大学非常勤講師／福島学院大学客員教授 井上 寿 先生			
9月7日(木)			
特別支援教育研修会 かながわようちえん会館 74名			
「集団の場で子どもが求める具体的対応環境刺激回避の3本柱」			
特定非営利活動法人発達支援機関 リソースセンターone代表理事			
臨床発達心理士 上原 芳枝 先生			
9月13日(水)			
新規採用教員研修会 神奈川県立体育センターアリーナ 127名			
体験しようアドベンチャー教育 第2回			
玉川大学TAPセンター 白山 明秀 先生			
9月13日(水)			
茅ヶ崎オープン講座 恵泉幼稚園 71名			
「それぞれのお子さんの個性に合わせた接し方」			
臨床心理士 鶴ヶ峰グループ代表責任者 ヴィヒャルト 千佳こ 氏			
9月20日(水)			
中堅教諭対象講習会 横浜美術館子どものアトリエ研修会 横浜美術館 49名			
たくさん描こう、いろいろなお絵かき(年中児の活動を中心に)			
横浜美術館子どものアトリエ主席エデュケーター 山崎 優 先生			
10月18日(水)			
川崎オープン講座 川崎市中原市民館ホール 157名			
「明日からすぐ使える手あそび・リズムあそび・わらべうた」			
キッズプランナー RAMU 先生／MEGUMI 先生			
10月18日(水)			
中堅教諭対象講習会 横浜美術館子どものアトリエ研修会 横浜美術館 52名			
確かめて描く、思い出して描く(年長児の活動を中心に)			
横浜美術館子どものアトリエ主席エデュケーター 山崎 優 先生			
10月19日(木)			
園内研修 かながわようちえん会館 47名			
「園内研修の協議を考える:研修時のテーマと協議活性化の工夫」			
東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美 先生			
10月26日(木)			
特別支援教育研修会 かながわようちえん会館 65名			
「集団の場で子どもが求める具体的対応発達特性をふまえた臨機応変な対応」			
特定非営利活動法人発達支援機関 リソースセンターone代表理事			
臨床発達心理士 上原 芳枝 先生			
10月27日(金)			
公開研究保育研修会 スミレ幼稚園 16名			
『公開保育』			
鎌倉女子大学教授 小泉 裕子 先生			
11月9日(木)			
相模原オープン講座 たけのうち幼稚園ホール 63人			
遊びの提案「あそび心引き出す～観客者として～」			
NPO法人アフタフ・バーバン代表 北島 尚志 先生			
11月15日(水)			
若手後継者のための保育勉強会 かながわようちえん会館 22人			
「幼稚園教育要領などの改訂と教育・保育の質的向上に向けて」			
広島大学大学院教育学研究科 准教授 中坪 史典 先生			
11月15日(水)			
鎌倉オープン講座 鶴岡八幡宮 直会殿 157人			
「3歳未満児の発達と保育 PART 2」			
深大寺保育園 副園長／元立教女学院短期大学 教授／子どもことば研究会			
代表／質の高い乳児保育を目指す実践研究会 代表 今井 和子 先生			
11月22日(水)			
資質向上セミナー【乳児保育セミナー】 鶴見大会会館 89人			
「一生の基礎となす乳児期の重要性を学ぶ			
～学ぶ力、生きる意欲が育つ保育と保育者の役割～」			
東京家政大学 ナースリールーム主任保育士			
東京家政大学 非常勤講師 井桁 容子 先生			
11月27日(月)			
資質向上セミナー かながわようちえん会館 86人			
「幼稚園教育要領の改訂と教育・保育の実践についての方向性」			
玉川大学 教授・四季の森幼稚園 園長 若月 芳浩 先生			
11月29日(水)			
湘央オープン講座 平塚市教育会館3F 150人(予定)			
「幼稚園教育要領の解説」			
～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目～			
鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科 教授 佐藤 康富 先生			

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」に「学習指導要領」の改訂により、学びの方向性が大きく転換しようとしています。そのような中、若手後継者のための保育勉強会では保育の質的向上を目指して、今後の自園の保育の方向性を考えることを考えて

若手後継者のための保育勉強会(5月9日・6月14日・8月23・24日・11月15日開催)
各園での今後の取り組みの方向性を探る
コーディネーター 若月芳浩 先生(玉川大学教育学部 教授/四季の森幼稚園 園長)

きました。

保育者を育てながら自園の保育の見直しを行ってきた、鳥取仁慈保幼園園長・妹尾正教先生のお話や、日本の幼稚園で初めてIB(International Baccalaureate 国際バカロレア教育)の認定を受け、プログラムの導入によって子どもの学びの質的向上へ



の改革を行っている、サニーサイドインターナショナルスクールの園長・渡辺寿之先生のお話、そしてコーディネーターの若

月先生のお話を聞く中で、より良い幼児教育を目指して保育の見直しをしていくことの難しさや、そこに至るまでのプロセスの理解をしてきました。

そして、いずれのお話の中にも、その園

8月30日(水)、男性保育者勉強会が行われました。相馬先生の指導の下、ホワイトボード(又は壁に貼ったホワイトボードのようなテープ)を使い、6グループに分かれ、始まりました。

①夏休みにどんなことにチャレンジをしましたか

②具体的にはどういうことをしましたか

③やり遂げた時、どのような感じでしたか

を、ワークシヨップーとして、各グループ

のリーダーが問い、一人ひとりの話をホワイトボードに書き込み、同じような体験があれば、もっと深い情報を得るために、質問を繰り返しました。次に、ワークシヨップ2として、一人ひとりが「なぜかなあ」「もう少し聞きたいなあ」ということに「しるし」をつけ、なぜ「しるし」をつけたのかを話し、「しるし」をつけられた人はその質

男性保育者勉強会(8月30日・12月20日開催)
「なぜかなあ」から振り返る
講師 相馬靖明 先生(お茶の水女子大学発達教育科学研究所協力研究員 保育のデザイン研究所研究員 東洋大学ライフデザイン学部非常勤講師)

今年も横浜美術館子どものアトリエで研修を行いました。今年度は参加しやすいように水曜日の保育終了後の時間を設定し、各チームに分けて3回開催し、毎回50名程の方が参加しました。

始めるに当たって、講師である山崎優先生から「絵を描くことを描くことだけで捉えずに、絵の具を何かにつけてみる」と考える、活動の幅がぐんと広がります。この講座では、子どもたちが楽しく絵の具やクレパスの活動に親しめるよう、成長に添った活動のねらいや指導のあり方を考えていきたいと思います」とメッセージいた

だきました。

○第1回 6月10日

テーマ つけることからはじめるえのぐ(年少児の活動を中心に絵の具の基本について)

あまり説明をせずに始め、「いつの間にかできちゃった!」という配慮が必要で、「楽しいな!」と思えるような方法を実技を通して学びました。

○第2回 9月20日

テーマ たくさん描こう、いろいろなお絵かき(年中児の活動を中心に)

自由画が苦手と感じる子は経験不足なの

で、「先生と一緒にやりましょう」と声掛けをして簡単なことで成功体験をさせて、あそびながら回数をこなしていくことが望ましいでしょう。

○第3回 10月18日

テーマ 確かめて描く、思い出して描く(年長児の活動を中心に)

年長児には「本当はこう描きたい」と意識させ、見ているものに描いている形を合わせるのだということに気付かせることが大切です。実技として全身画(立っている人)を描いてみました。年長児は自分で絵の具の濃さを調節して混ぜ、色を作ります。また、「お話が聞けることが大切」であり、話の聞ける人はいろいろなことがわかり自由度が高くなります。



事前に受講者から寄せられた質問に適切に答えていただきながら研修を進めていただきました。

来年度も今年度と同じような形で研修を進め、多くの皆さまにご参加いただけたら幸いと存じます。

(文責/研修事業部 江津秀子)



間に答えました。そして、ワークシヨップ3として、ワークシヨップ2を行って「ますますなぞになったこと」や「新たな

なぞが起こったこと」を付箋に書き、グループを移動し、各グループでどんな話題があり、なぜそれが自分のなぞになったのかを紹介しました。

「幼児教育において育みたい資質・能力」は、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」であり、遊びを通してそれが育

の中核となる者の保育への情熱・ゆるぎない信念があることを知りました。

今後は、園として保育の質的向上をどのような方向からアプローチしていっただいのかを、勉強会の参加者が自分自身の事として、様々な講師の先生の話をつきかけにしながら、具体的に語り合う場となっていくことを考えております。

(文責/研究部 久富多賀子)

研修事業部・研究部

活動報告

中堅教諭対象講習会 横浜美術館子どものアトリエ研修会
子どもたちが楽しく絵の具やクレパスの活動に親しめるように
講師 山崎 優 先生(横浜美術館子どものアトリエ主席エデュケーター)

り、所有する7艇の探査船・研究船も世界最高の掘削能力を持ち、マントルや巨大地震発生帯等の研究に大きく貢献している「地球深部探査船ちきゅう」を筆頭に、日本だけではなく世界中の海を研究フィールドとした「海と地球の研究所」といえるでしょう。

今回は深海生物や海底資源、また地球の内部・生命の起源などを探索する研究として「有人潜水調査船しんかい6500」の元パイロットとして

活躍され、現在は広報部長である田代省三氏にお話しいただきました。

しんかい6500は1989年に就航し、その名の通り6500メートルの潜水能力を有する船で、日本近郊に限らず世界中の深海で海底の地形探査、深海生物の調査などに様々な貢献をしています。田代氏は1980年に「乗り物の運転手になることを希望」し、JAMSTECに入所。当初はしんかい2000に乗船。その後しんかい6500

のパイロットとなり、現在までに318回の潜行経験を持っています。しんかい6500の深海探査研究として、地震のシステムの解明、深海生物の探査、熱水噴出孔の調査、そして生命の根源の探求などに携わり、現在も潜行を続けています。田代氏は豊富な潜水経験を持っていますが、同乗した研究者を含め、1回も飽きたことや体調を崩したこともなく、また深刻なトラブルなども皆無であるとのこと。最近ではロシアや中国など

他の国の有人潜水船に記録を塗り替えられています。JAMSTECでは今後さらに深く、長期間潜行活動を行うことのできる有人潜水船を鋭意準備開発中とのこと。

宇宙よりも到達が困難ともいわれている、未知の世界である深海の探査はこれからも続き、新しいエネルギーやわれわれの生命の根源を解明してくれることを願っています。

(文責/中山幼稚園 野末晃秀)

11月21日
開催

平成29年度 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会研修大会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 副会長 飯田 妙子

『目標達成・夢に対する行動の明確化と思考法』

講師 武田 美保 (シンクロスイマー)



澄みわたる秋空の下、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会研修大会が、県内全域より数多くの皆様にお集まり頂き、神奈川県立青少年センターにて開催されました。

はじめに主催者より「子どもを取り巻く厳しい状況の中、幼児教育の無償化への活動、家庭・幼稚園・地域社会が連携して子どもたちを守り育ていく環境づくり」に向けた力強い挨拶があり、ご来賓の県民局長・河合宏一様を始め県議会議員・佐藤光様より、今日の幼稚園教育に対するご理解あるお言葉と共に「更なる子育ての拡充を！」と挨拶を頂きました。改めて私たちの子育てには、私たち保護者だけでなく、多くのご支援とご協力があつて成り立っているものだとし、感謝致しました。

開会式終了後にアテネオリンピックの映像が流れ、日本を代表するシンクロスイマー、世界選手権・オリンピックメダリストであり、肥満予防健康管理士等マルチに活躍しながら、現在2児の母でもある武田美保先生による講演「目標達成・夢に対する行動の明確化と思考法」が始まりました。美しい立ち振る舞いにもかかわらず、親しみある話に釘付けになりました。21年間のシンクロナイズドスイミング生活の中で壁や分岐点に遭遇した時に、親からの言葉、コーチからの有難いお言葉、そして自分がどの様に乗り越え、目標達成したかをお話し下さいました。シンクロを始めたきっかけは、家から歩いて1分の所にあるスイミングスクールに通っていて、小学2年生の春、シンクロのコーチから見学に誘われた事でした。シンクロを始めた時は身体が固く、まず体操からでした。私は何事にも「自分ではできない」「できない事はやろうとしない」「子でいていく中で、できなくても恥ずかしいくない！」という後押しや、褒めてもらえることで、没頭することの楽しさを感じるようにになりました。6年生の時ソウルオリンピック

が開催され、その中で活躍していた選手を見て「カッコいい」と思い、「8年後オリンピックに出場する！」という目標が見えました。

後に恩師となる井村雅代先生のマントーマン指導を受ける機会がありましたが、先生のおっしゃることが全く出来ず、「オリンピックも無理じゃないか？」と言われましたが、日課であった母との会話で気持ちを回復することができました。私にとって井村先生は明確な目標を言ってくださり、母親はその時の消化しきれない感情やコーチの考えなどを一緒に考えてくれる存在でした。中学生となり井村先生のクラブに入り、先輩との関係に悩む毎日を送りましたが、母親には絶対知られたくありませんでした。しかし、母は気付いていて2つの答えを教えてくださいました。1つ目は「どんな立場になっても一生懸命」「周りから応援したくなる」という謙虚さ。2つ目は「ダントツに上手くなればいい」と聞き、考え方を変えた時、気持ちがガラツとかわり、先輩との関係も乗り越えることが出来ました。

3大会もオリンピックに出場したのは、やり終えた時の達成感を感じることが出来なかったためでした。1大会目のアトラントオリンピックは出場を目標としていたため、出場が決まった時に目標達成してしまい、練習に集中できず思っていた演技ができませんでした。2大会目のシドニーはデュエットで足がぶつかり残りになってしまいました。3大会目のアテネで自分自身最高の演技を行い、達成感を感じることが出来、井村先生より「自分を超えたね」と言葉を頂きました。目標達成するためには行動と共に家族や先生のサポートに加えて、自分を乗り越える力が大切とお話しして下さいました。

私はこの講演を聞いて、自分も子どもが話しづらい事に気づいてあげたり、感じ取ったり、一緒に考えたりできるような母親でありたいと強く思いました。今研修大会で多くの事を学び、感じながら、今後の子育てに活かしていきたいと思えました。この機会に感謝すると共に、今後の子どもたちと過ごす時間にお役立ていただければ幸いです。



教育相談室

東海道線が止まった！

事故で電車が遅れたので、私が幼稚園に着いた時には子どもたちがクラスに戻る音楽が鳴っていました。ふと見ると年中的男児が2人砂場に座り込んでいます。間にはお盆の中に砂と水を混ぜて焼く前のホットケーキミックス状にしたドロドロが出来上がっています。非常に魅力的な代物です。どちらの男児もニコニコしています。さて、この場で「部屋に入りましょう」と指示しても無理でしょう。動くはずがありません。そこで私は一方の男児に「ね、知ってた？ 今日東海道線止まったんだってよ」と少し大げさに言ってみました。すると即座に「えー、東海道線止まったの！」と目をキラキラさせて立ち上がったので、「それっかっこだ」とクラスの前方で一緒に走って行き、すんなり彼は中に入って行きました。音楽が鳴ればクラスに戻ることはわかっていました。でもドロドロの引力が強く自力では動かせません。「わがままな子ども」に見せている引力の力を断ち切ることも支援ではないでしょうか。

相談の
申し込み

電話・ホームページから事務局へ申し込みください。

電話番号 045-440-3210

ホームページ <http://www.shinshiyou.com>

教育相談員 鈴木 敦子先生(臨床発達心理士)

新卒者・既卒者向け
就職セミナー

報告

「来年の展望を
考える上で」

今年度は県内の多くの協会が就職相談会の計画を考えていることを部員から聞いていました。その一方で、会場費の負担や具体的な計画づくり、幼稚園への協力の呼び掛け等も含めて、まだ計画途中であったり、実現が難しい協会があることもお聞きしていました。そこで、県からの委託事業である「新卒者・既卒者向け就職セミナー」をこうした独自開催に今一步至っていない協会の人

材確保事業に活用出来るのではとの思いから、協会長に話をし共に協力し合い、会場費負担軽減や計画実施等のお手伝いを提案しました。その結果、8月の厚木協会、そして11月には小田原協会と湘央地区協会が就職セミナーを開催することが出来ました。これをきっかけとして、来年度以降も地区の継続事業となれば経営管理部としても嬉しく思

います。

そして、今回のセミナー開催に向けた新たな広報活動として、部員・開催地区の先生方に協力をお願いし、出来る範囲で養成校・大学に足を運んでいただき、セミナーのポスター掲示やチラシ配布と、直接趣旨説明をしてもらい、各校就職担当者からは現在の学生の就職活動状況や意識などの話を聞き取る事もできました。

加えて今年度からの新規事業として、「職業体験中学生向けチラシ」を作成し、約5,200枚配付いたしました。少し時間はかかるかもしれませんが、これも将来の人材確保につながってくれることを願っています。

更には今年度、就職相談会を実施された各協会からは、学生参加数が昨年度より多くなっている傾向がみられるとの報告を聞いている一方で、次年度への新たな人材の確保につながる新しい展開策を考えていかなくてはと強く感じています。

最後に、今後の就職セミナー等への取り組みを考える上で、新年度の経営管理部事業計画・予算の立て方や、県からの委託事業の「新卒者・既卒者向けセミナー事業」が継続されるのか等、諸々考え合わせながら進めていかなければと思っています。

(文責/経営管理部 近藤康弘)

午前中の雨は、全日私幼連・村上十五副会長の開式の言葉と共に小雨となり、研修大会の盛会を予感させる始まりとなりました。

記念講演は伊藤京子氏(ピアノリスト)による『音楽と共に紡ぐ未来―こどもたちへ伝えたいこと』をテーマに講演いただきました。同氏の夢は『100年後の日本の教育を、音楽を通じて未来にメッセージを伝えて行きたい』こと。

この希望を話すと「貴方は100年後生きているの」と問われるが、「今始めなければ来年もない。2年・3年先もない。だからこそ『今』一步を踏み出さなければいけない」と話され、

素晴らしい演奏が一曲終わるごとに会場は大きな拍手に包まれました。講演の結びに、「諦めてはいけません。諦めずに続けなければ必ず未来はある。言葉で表せない表現が音楽にはある」と話され、社会全体で子どもの育ちを見守って行くことが大切だと改めて確認できる時間を共有しました。

行政報告は、『全ての子どもに質の高い幼児教育を』のテーマで先崎卓歩氏(文部科学省初等中等教育局幼児教育課長)から以下の5点について話がありました。

1. 「幼児教育」の現状
2. 幼児教育無償化に向けた取り組みの段階的推進
3. 子ども・子育て支援制度
4. 平成30年度幼児教育関係予算の概算要求
5. 幼稚園教育要領の改訂について

この中でも印象的だったのは、2の幼児教育無償化の意義について、

I 幼稚園で行われる幼児教育はかけがえない素晴らしいものだが

II その素晴らしい教育をできるだけ多くのお子様に安心して受けさせることができる

III 保護者の負担を軽くして安心して幼児教育を受けられる。ひいてはそれが少子化対策の意義を持つていると、背中を押していただける心強い言葉でした。

基調講演は、地元別府市出身の脇貴志氏(株式会社アイギス代表取締役)による『事故現場には後悔しかない』です。100件以上の死亡事例に対応していると、なぜいともできていることが、この事故の日だけできていなかったんだと反省している姿が見られますが、たまたま起きた事故などありません。起きるべくして事故は起きます。諸々の事例の中から、リスクを回避するため

には日頃からの危機管理をしていかなければならない事を改めて痛感しました。

その後、幼稚園ナビの説明、こどもがみんなプロジェクトからの報告がありました。

また意見交換会は、全日私幼連・小澤俊通副会長の開会の言葉から始まり、終始和やかに無事盛会のうちにお開きとなりました。

2日目は 研究講座として教育・振興・経営・認定こども園の4つの分科会が開催され、それぞれ充実した講座となりました。2日間実りある研修と有意義な時間を共有できました。

(文責/副会長 余郷有聡)

7

6

神奈川県子ども・子育て会議について

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤 俊通

平成25年度に発足した「神奈川県子ども・子育て会議」は第3期目がスタートしました。第2期に引き続き、県連を代表して委員に就任することになりました。子ども・子育て支援新制度も3年目を迎えており、この会議では県内全ての市町村の事業計画を議論することになっています。会議の中に部会が設けられ、私は計画フレーム部会・子育て支援人材情報部会・幼保連携型認定こども園認可専門部会の全ての部会に加わっております。今後の会議でも私立幼稚園の立場をしっかりと発信していきたいと考えています。

神奈川県子ども・子育て会議(第3期)委員及び専門委員名簿 (順不同、敬称略)

条例に定める委員の属性	所属・役職	委員氏名
子どもの保護者	子育て当事者	桂 由佳
市町村長	神奈川県市長 川崎市市長 神奈川県町村会 葉山町長	福田 紀彦 山 梨 崇 仁
事業主を代表する者	(一社)神奈川県商工会議所連合会 専務理事	稲 垣 良 一
労働者を代表する者	日本労働組合総連合会神奈川県連合会女性局長	大橋 由紀子
子ども・子育て支援に関する事業に従事する者	(公社)神奈川県私立幼稚園連合会 会長	小 澤 俊 通
	(社福)神奈川県社会福祉協議会保育協議会 会長	萩 原 敬 三
	(公社)神奈川県医師会 理事	高 井 昌 彦
	(公社)神奈川県看護協会保健師職能委員会 委員長	森 田 佳 重
	(社福)神奈川県社会福祉協議会民生委員児童委員部会 委員	榎 林 照 江
	神奈川県保育士養成施設協会 会長	平 野 建 次
	イキメン研究所 上席研究員	織 田 弦
子ども・子育て支援に関し学識経験のある者	神奈川県弁護士会子どもの権利委員会 委員	高 藤 杏 花
	静岡県立大学 学長	鬼 頭 宏
	(株)保育システム研究所 代表取締役	吉 田 正 幸
	(株)日本総合研究所 主任研究員	池 本 美 香
	小田原短期大学 学長	小 沼 肇
	子どもの領域研究所 所長	尾 木 まり
関係行政機関の職員等	東洋英和女学院大学人間学部保育子ども学科 准教授	金 森 三 枝
専門委員	神奈川県市町村教育長会連合会 秦野市教育委員会教育長	内 田 賢 司
	一橋大学大学院経済学研究科 教授	山 重 慎 二
	(社福)神奈川県社会福祉協議会保育協議会 副会長	小 磯 英 次
	(社福)神奈川県社会福祉協議会保育協議会 副会長	奥 村 尚 三

祝 Pride of KANAGAWA

今年も嬉しいお知らせがありました。
心よりお祝い申し上げます。

瑞宝双光章



学校法人北鎌倉学園
おおぞら幼稚園
理事長・園長
山田 誠一 先生

解説 国および地方公共団体の公務または公共的な義務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方に贈られる。

平成29年度 神奈川県私立学校教育功労者表彰



学校法人磯川学園 倉見幼稚園 理事長 磯川 浩 先生
学校法人鴨居学園 鴨居幼稚園 理事長・園長 今井 恵子 先生
学校法人長津田学園 ながつた幼稚園 理事長 森 慎互 先生

解説 私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた方に贈られます。

全日本私立幼稚園連合会“幼稚園ナビ”紹介

全日本私立幼稚園連合会の開発した“幼稚園ナビ”が11月1日から稼動しています。文部科学省の“幼稚園の人材確保支援事業”予算を利用して開発されたシステムです。様々な機能が搭載されていますが、なんといっても、このシステムの中心は、幼稚園側の人材確保ニーズと新卒・転職者側の求職ニーズのマッチングにあります。幼稚園が求人情報や、イベント情報、お役立ち情報を提供し、学生に興味関心を持ってもらうことがこのシステムの生命線です。いくら学生がアクセスしても、幼稚園側からの情報が掲載されていないでしょうしようありません。スマホを駆使する学生向けに、是非ご活用ください。

<https://navi.youchien.com/company/14>



From the Public Relations Section

編集後記

子どもたちの体力はますます低下していて、文部科学省が毎年行っている、全国体力・運動能力等調査(平成27年度)の小学生の結果では、神奈川県は最下位という報告でした。皆さんの園の子どもたちは如何でしょう。転びやすかったり、「疲れた…」が口ぐせになっていたりしませんか。体力は人間のあらゆる活動の源であり、健康な生活を営む上でも、また物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わ

っています。子どもの時期に活発な身体活動を行うことは、成長・発達に必要な体力を高めることはもとより、運動スポーツに親しむ身体能力の基礎を養い、病気から身体を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことにもつながると思います。季節は秋から冬へと変わり、もうすぐ本格的な寒さがやってきます。この時期に、少しずつ体力をつけていきましょう。

(広報室 菅沼正平)